



around the world

アメリカ連邦最高裁 初の黒人女性判事誕生に向けて

千葉大学教授 **大林啓吾**

アメリカで「ジャクソン判事」とい
えば、ロバート・ジャクソンが思い浮
かぶ。彼は第二次大戦中の日系人収容
を認める判決に対して反対意見を書い

た気骨の人物であり、戦後はニユルン
ベルク裁判に首席検事として参加する
など国際的にも活躍した。その連邦最
高裁の歴史に、新たなジャクソンの名
が加わるかもしれない。二〇二二年二
月二五日、バイデン大統領がケタンジ・
ジャクソン氏をステイブン・ブライ
ヤー判事の後任に指名したからである。
まだ上院の承認を得られていないので
予断を許さないが、ジャクソン氏が連
邦最高裁で初の黒人女性判事になる可
能性があり、注目を集めている。

バイデン大統領は大統領選挙期間中
から連邦最高裁判事に黒人女性を指名
すると公言し、そのとおり幾人かの候
補の中からジャクソン氏を選んだ。ワ
シントンDC生まれの彼女は、DC連
邦地裁およびDC連邦高裁の判事を務
めてきたことから、DCキャリア組の
ようにみえるが、高校までの多感な時
期をマイアミで過ごした。高級リゾー

ト地で知られる反面、違法薬物と不法
移民であふれるマイアミで育った経験
は、彼女に少なからぬ影響を与えたよ
うである。量刑委員会のメンバーになっ
た際には薬物犯罪の減刑に取り組み、
連邦地裁判事時代は政府の移民規制の
適法性を厳しくチェックし、トランプ
大統領のトラベルバン（特定の国から
の入国を禁止した大統領命令）に対し
て全国的差止めを認めるなど、マイアミ
時代に目にした光景を踏まえ、弱者の
立場を考慮した判断を試みているよう
に思える。

リベラル派は彼女に次の三つの点を
期待していると思われる。第一に、女
性判事としての役割である。保守化が
進む連邦最高裁は、妊娠中絶に対する
女性の自己決定権を認めた一九七三年
のロー判決を覆す可能性が出てきてい
る。そこでジャクソン氏が加われば、
リベラル系判事は全員女性となり、仮

に覆されることになっても、女性判事が全員反対したというインパクトを社会に与えることができる。

第二に、黒人判事としての役割である。現在、黒人のトーマス判事は保守派のため、アフアーマティブアクションに否定的である。そこでリベラル系のジャクソン氏が、黒人判事として差別を積極的に是正する判断を行うことが期待される。

第三に、長期にわたるリベラルの実践という役割である。一九七〇年生まれ、五一歳のジャクソン氏は連邦最高裁判事の中では若手である。連邦最高裁判事は終身制であるため、彼女は長期にわたり判事職を務めることができ、その間にリベラル的判断を下し続けることが期待される。

以上の期待は、バイデン大統領が最初に黒人女性というカテゴリーをセツトしたことからもわかるように、ジャクソン氏個人というよりも、属性への期待である。もともと、これから舞台は上院公聴会に移り、ここでは個人の見解が問われることになる。

ジャクソン氏が就任しても、連邦最高裁判事の保守とリベラルの割合は六



連邦最高裁判事に指名されたケタンジ・ジャクソン氏（右）とバイデン大統領（AP／アフロ）

対三で変わらない。そのため、連邦最高裁判事の判断が大きく変わることはないかもしれない。他方、たとえ多数意見を形成できなくても、ジャクソン氏が個別意見を書き続け、それが政治部門や将来の連邦最高裁判事に影響を与える可能性もある。特に彼女は連邦地裁判事時代にトランプ政権の行政行為を幾度となく違法と判断しており、かかるリベラル的司法積極主義スタンスはリベラル派にとって期待の星といえよう。

また彼女はエイミー・バレット判事に続き、二人目の一九七〇年代生まれの判事となる。保守派のバレット判事と共鳴する部分は少ないかもしれないが、ベトナム戦争や市民権運動以降に生まれた世代のリベラル系判事がどのような判断を下していくのかも興味深いところである。●